



2015 DIJON Racing SUPER GT RACE REPORT

FUJI GT 500KM RACE

開催日時 : 2015 年 5 月 2 日～3 日
 開催地 : 富士スピードウェイ (静岡県)
 ドライバー : Takamori 博士 / 田中勝輝 / 柴田優作
 マシン名 : DIJON Racing GT-R (日産 GT-R GT3)
 参戦クラス : 2015 年 SUPER GT SERIES / GT300 クラス

天候 : 予選 / 晴れ
 決勝 / 晴れ
 路面 : 予選 / ドライ
 決勝 / ドライ
 入場者数 : 予選 / 33,500 人
 決勝 / 58,000 人

練習走行 : クラス 20 位 (1 分 39 秒 870)
 予選 Q1 : クラス 21 位 (1 分 39 秒 362)
 予選 Q2 : ----
 フリー走行 : クラス 20 位 (1 分 40 秒 910)
 決勝 : クラス 18 位 (72 周)

DIJON
Racing

MTSUNAGA
GROUP

inoiki

1/2秒 HKT48

Cure★
Album Planet

ENDLESS

IBRIDA CELL

h Dental office

NILZZ
Racing Factory

POWER STATION

アーツ銀座
クリニック

KTEL

PINS
FACTORY®

NISSAN **nismo**
NISSAN GT-R NISMO GT3
Customer Racing

CKK

TAKATA

ヒョウゴベンダ

YOKOHAMA

RAYS



5月の大型連休恒例のイベントとなった SUPER GT シリーズ第2戦『FUJI GT 500KM RACE』が5月2日(土)～3日(日)に静岡県富士スピードウェイで開催された。

世界有数のハイスピードサーキットである富士スピードウェイを舞台に行われるこのシリーズ第2戦は通常のシリーズ戦とは異なり、500kmのレース距離で行われるセミ耐久レースとなっていて、ピット作業の2回義務付け、第3ドライバーの起用可能と、他のシリーズ戦と異なる変更点があるのが特徴。

しかし500kmという従来よりも長いレース距離とは言え、ハイレベルな SUPER GT シリーズの中で勝負するにはスピードを持続させつつマシンの耐久性を合わせ持たなければならないため、ドライバーとマシンにとって非常にタフなレースとなる。

またチームの戦略も勝負に大きく関わってくるため、チームの総合力が好成績を得るための大きなポイントとなる。

DIJON Racing はこのレースにレギュラードライバーの Takamori 博士、田中勝輝に加え、全日本ジムカーナチャンピオンの柴田優作を起用。

柴田は3月に岡山国際サーキットで行われた公式テストで適応力の高さを見せ、SUPER GT デビュー戦となるこのレースでどのような走りを見せるのか、非常に注目される。

DIJON
Racing

MTSUNAGA
GROUP

iniooki

1/2秒 HKT48

Cure★
Album Planet

ENDLESS

IBRIDA CELL

h Dental office

NILZZ
Racing Factory

POWER STATION

アーツ銀座
クリニック

KTEL

PINS
FACTORY®

NISSAN **nismo**
NISSAN GT-R NISMO GT3
Customer Racing

CKK

TAKATA

ヒョウゴベンダ

YOKOHAMA

RAYS



■5月2日（土）練習走行（天気：晴れ／コース：ドライ）

雨に見舞われた前戦の岡山国際サーキットでの開幕戦から打って変わって、雲ひとつない好天で迎えた5月2日は8時50分より公式練習のセッションが行われた。

今期より練習走行のセッション時間が短くなったこともあり、効率良くプログラムを進めなければならないため、エース Takamori 博士がセッション序盤の走行を担当。マシンチェックのためにペースをセーブしつつも計測4周目に1分40秒197をマーク、この時点で7番手につける。

その後は田中～柴田～田中という順で走行し、個々に与えられたプログラムに従って走行を行った。

練習走行終盤は予選に向けてのセッティング変更を行い、Takamori 博士が評価のために走行するも、『走行開始時のセッットが良い』と判断。序盤のセッットに戻して予選に挑むこととなった。

このセッションは柴田がマークした1分39秒870がチームベストとなり、21番手という結果となった。



DJON
Racing

MITSUNAGA
GROUP

inoiki

1/2秒 HKT48

Cure
Album Planet

ENDLESS

IBRIDA CELL

H Dental office

NILZZ
Racing Factory

POWER STATION

アーツ銀座
クリニック

KTEL

PINS
FACTORY®

NISSAN nismo
NISSAN GT-R NISMO GT3
Customer Racing

CKK

TAKATA

ヒョウゴベンダ

YOKOHAMA

RAYS



■5月2日（土） 予選 Q1（天気：晴れ / コース：ドライ）

引き続き好天の下、14時15分よりGT300クラスの予選Q1セッションが開始された。

今回の予選は昨年の第4戦以来の予選Q1を走行となるTakamori博士が担当。

Takamori博士は計測4周目に1分39秒739をマークし7番手につける。

その後、コース上の混雑に遭遇したため、1周のクールダウンラップを設けて再アタックへの間合いを調整した。

計測5周目、予選アタックを再開。1分39秒362をマークし自身のベストタイムを更新。引き続きアタックを継続するも、2号車ロータスがストップしたため赤旗が提示。『この周はいけそうだった。』と自身が手応えを感じていた予選アタックを中断せざるを得なかった。

再開後、時間は3分残っていたが、決勝レースに向けてタイヤを温存するために、この赤旗の時点で走行を終了した。この予選結果によりDIJON Racing GT-RはGT300クラス21番手からのスタートとなった。

■5月3日（日） フリー走行（天気：晴れ / コース：ドライ）

予選日よりも雲はあるものの、引き続き好天に恵まれた富士スピードウェイ。

9時00分より行われたフリー走行は、主に決勝に向けてのマシンチェックやピット作業の確認に費やした。

DIJON
Racing

MTSUNAGA
GROUP

inoiki

1/2秒 HKT48

Cure★
Album Planet

ENDLESS

IBRIDA CELL

h Dental office

NILZZ
Racing Factory

POWER STATION

アーツ銀座
クリニック

KTEL

PINS
FACTORY®

NISSAN nismo
Customer Racing

CKK

TAKATA

ヒョウゴベンダ

YOKOHAMA

RAYS



■5月3日(日) 決勝(天気:晴れ / コース:ドライ)

58,000 人もの観客が見守る中、14 時 22 分、フォーメーションラップを終えた 26 台による GT300 クラスの第 2 戦がスタートした。

今回のスタートドライバーは Takamori 博士が務めた。

8 周目に 1 コーナーで起きた 88 号車ランボルギーニから出火があり、セーフティーカー(SC) が導入される。

DIJON Racing は『この SC 解除は早い』と判断し、このタイミングでのピットインは行わず走行を続けた。

23 周を過ぎた頃より最初のピットストップを済ませるライバルチームが続々と出てくるが、DIJON Racing GT-R は最初のスティントを作戦通り引き延ばす。

38 周目に最初のピットストップを迎える頃には 4 位にまで順位を上げることに成功した。

ピットストップを終え、次のスティントを担当したのは田中。

ライバル勢にタイヤバーストなどのアクシデントが多く見られる中、順調に周回を重ねる田中。

自身のスティント後半で 11 号車 SLS とのバトル中に接触されるアクシデントはあったものの、70 周目には 7 位まで順位を回復していた。

しかし 71 周目、燃料システムの異常を示す警告灯が点灯。DIJON Racing のピットは急いでピットストップの準備を行い、田中が戻るのを待っていた。しかし、ピットまで残りわずか 13 コーナー付近で DIJON Racing GT-R はコースサイドに止まってしまい、DIJON Racing GT-R がピットロードに姿を見せることはなかった。

DIJON
Racing

MTSUNAGA
GROUP

inoiki

1/2秒 HKT48

Cure★
Album Planet

ENDLESS

IBRIDA CELL

Dental office

NILZZ
Racing Factory

POWER STATION

アーツ銀座
クリニック

KTEL

PINS
FACTORY®

NISSAN nismo
NISSAN GT-R NISMO GT3
Customer Racing

CKK

TAKATA

ヒョウゴベンダ

YOKOHAMA

RAYS

DIJON Racing の第 2 戦はこの時点でチェッカーフラッグを受けることができず、決勝レースを終えざるを得なかった。規定周回数が 70 周ということで、これまで 72 周を周回していた DIJON Racing GT-R は完走扱いとされ、チームランキングポイントを加算できたことは救いであったが、ポイント獲得も期待できただけに、非常に悔しい結果となってしまった。

第 3 戦タイ大会は不参加のため、DIJON Racing の次戦は第 4 戦富士大会となります。

今回のレースは結果こそこのような結果となってしまいましたが、DIJON Racing チーム全員が更に努力を重ね、雪辱を遂げることができるように頑張ります。引き続き皆様よりご声援いただきますよう、お願いいたします。



DIJON
Racing

1/2 秒 HKT48

IBRIDA CELL

H Dental office

アーツ銀座
クリニック

CKK

MTSUNAGA
GROUP

Cure★
Album Planet

NILZZ
Racing Factory

KTEL

TAKATA

ヒョウゴベンダ

inoiki

ENDLESS

POWER STATION

PINS
FACTORY®

YOKOHAMA

RAYS

NISSAN nismo
NISSAN GT-R NISMO GT3
Customer Racing